

平成20年(2008年)のアユ資源調査結果概要

酒井明久・田中秀具・鈴木隆夫・上野世司・金辻宏明・上垣雅史・澤田宣雄

◆背景・目的

年間を通じてアユの資源水準や成育状況を評価するため、魚群分布調査、産卵状況調査、ヒウオ生息状況調査および成育状況調査を実施した。

◆成果の内容・特徴

- ・平成20年の魚群数は、6月まではほぼ平年並みで7月以降は平年を大きく上回った(図1)。
- ・平成20年の産卵数は、154.6億粒で平年値110.2億粒の1.4倍であった(図2)。
- ・平成20年のヒウオ生息密度は、最も採集数の多かった10月の調査では平年並みであった(図3)。
- ・平成20年2月以降の漁獲魚の平均体長は、エリは6月を除いて、ヤナは漁期を通じて平年を上回った(図4)。

◆成果の活用・留意点

調査の継続により引き続き資源水準の評価を行うとともに、調査データの蓄積が必要である。

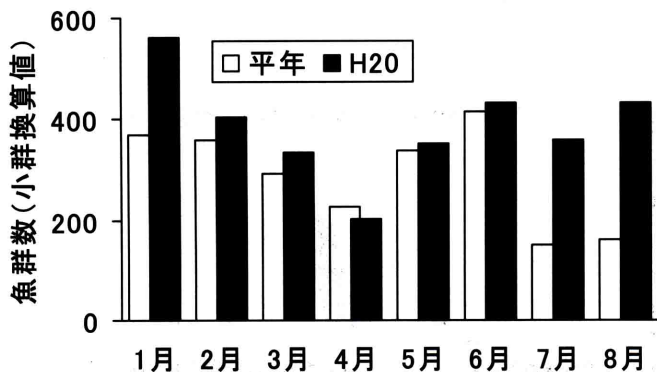


図1 平成20年の魚群数の推移。
平年値は過去10年間の最大・最小を除く8年間の平均値。

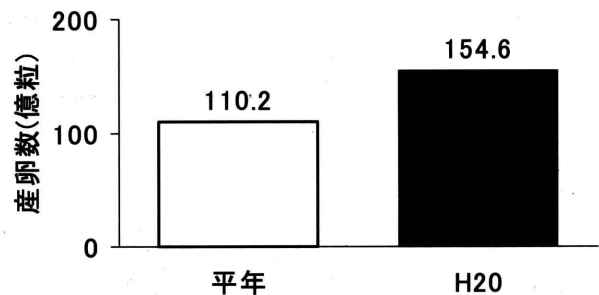


図2 平成20年の天然河川における産卵数。平年値は過去10年間の最大・最小を除く8年間の平均値。

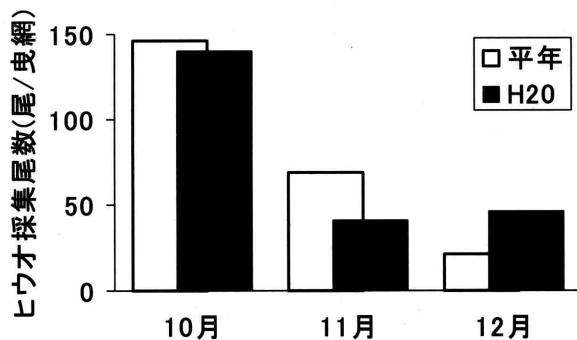


図3 平成20年のヒウオ生息密度。
平年値は過去10年間の最大・最小を除く8年間の平均値。

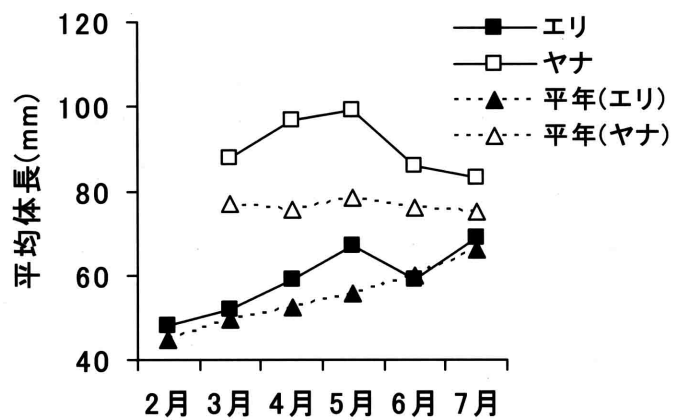


図4 平成20年のエリ・ヤナ漁獲魚の平均体長。平年値は昭和50年から平成19年の平均値。